

12月5日（木）

おはようございます。

新約聖書の中には、「マタイによる福音書」というのがあり、その中に次のような表現があります。

「おおよそ、持っている人は与えられて、いよいよ豊かになるが、持っていない人は、持っているものまでも取り上げられるであろう」というものです。この表現をヒントに、社会学者のロバート・キング・マートンが、「マタイ効果」という言葉を作りました。1968年のことです。「マタイ効果」とは、お金持ちはもっとお金持ちになり、貧乏なひとはますます貧乏になるものだということ。この言葉は経済界でかなり定着しており、インターネットで検索をかければすぐに出てきます。たとえば、インドネシアであれば、華僑は全体の人口の8%ですが、この国の富の70%をこのわずか8%の華僑が保持しているといった具合です。

ところが、欧米のポジティブ心理学者たちは、この「マタイによる福音書」には、それとは別の意味があるのではないかと捉えました。それは、「ポジティブに考える人間には富がもたらされるが、ネガティブにばかり考える人間には、持っているものまでも失われてしまう結果がもたらされる」という解釈です。これはたいへん深い言葉だと私は思っています。

以前、諸君にはお話ししましたが、ジストニアという手が動かなくなる病気にかかったピアニスト、西川伍平さんは大阪の人です。彼は、高校からピアノを始めたにもかかわらず、ヤマハのコンクールで、たまたま来日していたアメリカのピアニストの目にとまり、誘われてアメリカに渡ったのでした。その三年後、アメリカのカーネギーホールで演奏する機会を得るほどになりました。それまで、順風満帆の人生でしたが、ある時ジストニアという病気にかかり、指が動かなくなりました。病院で、「あなたはもう一生ピアノは弾けない」と言われました。セカンドオピニオンでも同じような宣告を受けました。

絶望しました。それでもニューヨークに残り、掃除の仕事や福祉の仕事で食を食いつなぎました。そしてあるとき、子どもたちの福祉の会に呼ばれてピアノの演奏を頼まれました。指が曲がっているところは見られなくなかったけれども、そこで、「ギンギンギラギラ」を弾いたら、子どもたちが一生懸命に歌ってくれたのだそうです。指は曲がっているけれど、こんなに子どもたちが一生懸命に歌ってくれるのだから、まだ自分は音楽で人々に夢を与えることができるのだとひらめいた。

そこから、リハビリに力をいれ、繰り返していくと、七本の指が動くようになった。だから、彼は「七本の指のピアニスト」と言われています。八本目も動き出していると聞いていますが、八本目を無理に動かすと、翌日には親指も人差し指もすべての指が動かなくなるのだそうです。ジストニアの後遺症がまだ残っているのです。

それでも彼は言います。「この病気は、神様が私に与えてくださったギフトだ」と。順風満帆だった人生が大きな病気に襲われた。今まで当たり前だった演奏が当たり前でできなくなったことで、これまでチャンスを与えてくれた人や、演奏を聴いてくれるひとへ感謝することができるようになった。その感謝の気持ちのこもった彼の演奏は、素人の私たちでも感動するほど魅力があるそうです。

先ほどの、マタイ効果の話ではありませんが、人が苦境に陥っても、ポジティブにものごとを捉えていくことができれば、状況は変わりうるということです。私は常々そのように考えています。

うまくものごとが進むことの方が人生においては少ないのです。校祖平岡岩峯先生は、この場所でようやく校舎を完成させたときに、ジェーン台風が襲来し校舎は全壊してしまった。さぞショックを受けているだろうと、親類の皆が心配をしてお見舞いに来てくれた。そのとき、岩峯先生は、「校舎はやっぱり鉄筋でないとだめだなあ」とつぶやいた。周りにいたものたちは「気が変になったのではないか」ととても心配したそうです。しんどくて不幸なときに、自分で不幸だと暗示をかけてしまうのではなく、そんな状況をもポジティブに捉えて、これはチャンスだと頭を切り替えられるかどうかです。それこそ、ジョゼフ・マーティンがいうマタイ効果だと思います。

私たちの学校では、「希望のなかに幸福を見出す」ことの大切さを言います。家庭でうまくいかないこと、学校でうまくいかないこと、クラスでうまくいかないこと、大学受験でうまくいかないこと、クラス替えでうまくいかないこと、などなど、様々に自分がしんどいと思うときに、「ああしんどい、しんどい」と思うことで、ほんとうにどんどん落ち込むのではなくて、この状況は自分が成長できるチャンスではないかと、思い切って見方を替えてみる。それこそが「希望の中に幸福を見出す」という精神なのです。わが身は不幸だと、ネガティブに自己暗示をかけるのではなくて、ここに希望が見出せないかとポジティブに捉えなおしてみるのです。これをよく理解して、日常で自分を鼓舞するヒントにしてほしいと思います。

学校長